

オリーブ・コンソート

1500年～1600年におけるコンソート音楽

The Olive Consort

"Consort Music between 1500 and 1600"



ゲスト
井上 玲
Rei Inoue



ケース・ブッケ
Kees Boeke



ヴァルター・ファンハウヴェ
Walter van Hauwe



田中 せい子
Seiko Tanaka



ダニエレ・ブラジェッティ
Daniele Bragetti

2026年 **12月22日** (火) 18:00開演
(17:30開場)
としま区民センター 8F 多目的ホール
豊島区東池袋1-20-10 池袋東口徒歩7分

全席自由
一般 ￥6,000
学生 ￥3,000

[チケットお申し込み]

◆ スタジオ・ピオティータ

TEL: 03-5316-7161
Mail: info@ms-tms.com

◆ ストゥディオ・フォンテガーラ

TEL: 03-3983-3486
Mail: studiofontegara@gmail.com



◆ e+ (イープラス)

WEB: <https://eplus.jp>



◆ ギタルラ社・

東京古典楽器センター
TEL: 03-3952-5515

主催 ストゥディオ・フォンテガーラ

マネジメント協力 一般社団法人 ムジカテミス (スタジオ・ピオティータ)

後援 オランダ王国大使館 イタリア大使館/日伊160年



レジェンドたちの渾身のサウンド、至高のフィナーレ。

オリブ・コンソートのサウンドは、音域ごとに音色にこだわり、息の緩急を巧みに使い分けながら響きを作り出すという点で、現代の若い奏者達のトレンドである均質な響きとは大きく異なると言えるだろう。リコーダーという楽器を知り尽くした彼らの息遣いからは様々なシェイプの多彩な響きが生まれる。音そのものに揺らぎや抑揚をつけ、楽器を自在に響かせるこのような奏法を最初に生み出したのはフランス・ブリュッヘン（1934-2014）だった。

ブリュッヘンの薫陶を受け、彼を中心に巻き起こった古楽復興のムーブメントの主演であった巨匠、ケース・ブッケとヴァルター・ファンハウヴェ。長きにわたる活動の果てに彼らが到達し、選んだのが4重奏という形だった。半世紀以上にわたりリコーダー復興のパイオニアとして世界を牽引してきた二人が、かつての弟子で、国際的に活動するダニエレ・ブラジエッティと田中せい子と共に響きを重ねる「オリブ・コンソート」。彼らはリコーダーというシンプルな楽器から宇宙的かつ普遍的なサウンドを創り出す。

第1回「リコーダーによる作法の新旧」（2019）、第2回「層・LAYERS」（2023）に続き本年、待望の3年ぶりとなる来日公演が実現。第3回となる今回のテーマは、「1500年～1600年におけるコンソート音楽」。本公演では、ルネサンス音楽が最も美しく花開いた16世紀ヨーロッパ3カ国のコンソート作品（同じ楽器による合奏曲）を取り上げる。

オープニングはイギリス。名匠アンソニー・ホルボーンの気品溢れるダンス・チューン（パヴァーヌとガリアルド）を、国内外で絶賛を浴びる才能あふれる若きリコーダー奏者、井上玲をゲストに迎え5名でお届けする。5声で織りなす洗練された音のタペストリーは哀愁と歓喜を鮮やかに描き出す。続くイタリアでは、当時の大ヒット旋律「ラ・スパーニャ」を基にしたフェスタの名人芸的な対位法や、イザークの情感豊かな響きが耳を楽しませる。そして、ヨーロッパ音楽の基礎を築き上げたフランドル楽派。オペレヒトやブリュメル、ギゼリンらによる緻密に計算されたポリフォニー（多声音楽）の力強さはまるで、ルネサンスの建築物を見るかのようだ。

20世紀はリコーダーが再発見され、多くの優れたプレイヤーがこの楽器に熱狂することによって、音作り、運指テクニック、アーティキュレーションのすべてにおいてかつてない程にレベルが向上した時代だった。ブッケ、ファンハウヴェは常にその先頭に立って世界中にこの楽器の魅力を伝えた。本年12月、リコーダーが最高に輝いていた頃の音色がオリブ・コンソートによって再び蘇る。そしてそれを耳にできる機会は、これが最後かもしれない――。

ルネサンス時代、

豊かに花開いたリコーダーコンソートによるポリフォニーの真髄。

プログラム

◆ イギリス

アンソニー・ホルボーン (c. 1545-1602)

- ・パヴァン
- ・アモレッタ
- ・哀愁のイメージ
- ・見よ、どれほど素晴らしいか など

◆ イタリア

コスタンツォ・フェスタ (c. 1485/90-1545)

「ラ・スパーニャ」上の7つのコントラプント
ハインリッヒ・イザーク (c. 1450/55-1517)
ラ・ミ・ラ・ソ など

◆ フランドル

ヤコブ・オペレヒト (1457/58-1505)

アントワヌ・ブリュメル (c. 1460-1512/13)

ヨハネス・ギゼリン・フェルボネ (fl. 1455-1511)
の作品など

オリブ・コンソート

ケース・ブッケ Kees Boeke

アムステルダム生まれ。「サワークリーム」「リトルコンソート」等の創設メンバー。ハーグ王立音楽院やトロロンゲン音楽大学等の教授を歴任し、世界各地でセミナーを開催。近年は伊アレツォにて「トレチント音楽週間」を主催する。70以上のCD録音、主宰レーベル「オリブ・ミュージック」の運営に加え、作曲家、編集者としても精力的に出版を行う。2019年には貴重な中世楽譜モナ写本を校訂・出版。1980年よりトスカナ州に居住し、最高級オリブオイル生産者の顔も持つ。

ヴァルター・ファンハウヴェ Walter van Hauwe

ソリスト、そして「サワークリーム」や「リトルコンソート」のメンバーとして長年リコーダー界を牽引。ブリュッヘン、レオンハルト、アーノクナルらと数多くの演奏や録音を行う。現代音楽の分野とも緊密に関わり、ドナトニや伊伊桑らに新作を委嘱。1971年よりアムステルダム音楽院で教鞭をとり、画期的な集中レッスン「ブロックシステム」を考案して世界中から専門生を集めた。3巻からなる著書「現代リコーダー教本」は各国語に翻訳され、2002年にはオランダの「ベルナルド皇太子賞」を受賞。

ダニエレ・ブラジエッティ Daniele Bragetti

ミラノ市立音楽院卒業。ニーナ・スターンに師事。その後イタリアでケース・ブッケに師事し、アムステルダム、スヴェーリンク音楽院に入学、マライケ・ミッセン、ジャネット・ファンヴィンガーデンに師事し、同音楽院を卒業。ヨーロッパ、日本、南米でソリスト、アンサンブル奏者として活動を行う。ミラノ音楽院にて教鞭をとったほか、現在ジュネーヴ高等音楽院リコーダー科、ミラノ市立音楽院リコーダー科教授を務める。

田中せい子 Seiko Tanaka

上野学園中学、高校リコーダー科を経て、同大学器楽科を卒業。アムステルダム、スヴェーリンク音楽院に留学。ヴァルター・ファンハウヴェ氏に師事。教授者および演奏家ディプロマを取得し同音楽院を卒業。ヨーロッパ及び日本で演奏活動を行う。教育活動も活発に行っており、上野学園大学、ヴァレーゼ音楽院、ミラノ音楽院講師を経て、現在は東京の「スタジオ・フォンテガウラ」主宰。ミラノと東京をベースに活動している。

ゲスト

井上 玲 Rei Inoue

大阪府出身。東京大学を経て東京藝術大学大学院修士課程を最優秀の成績を得て修了。第32回国際古楽コンクール〈山梨〉第3位（第1位なし）、第11回テレマン国際古楽コンクール（ドイツ）第2位および聴衆賞、第34回青山音楽賞〈新人賞〉、令和6年度「大阪文化祭奨励賞」ほか受賞多数。各地での演奏会に加え、国内主要古楽祭へのゲスト出演、台湾・韓国での公演・レクチャー・マスタークラスへの招聘、曲目解説やCDレビューの執筆など、気鋭のリコーダー奏者として国内外で多角的に活動し、新聞や音楽雑誌でも度々取り上げられている。

